

## 大阪市立内代小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・学校）</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童に対する取り組みを強化し、月に一度情報交換を実施する。</p> <p>○児童アンケートにおける「毎日、学校に来るのが楽しいですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p><b>〈最終評価記入欄〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、3～6年生で90%以上の学年もあれば、83%の学年もあった。4学年での平均は約88%だった。引き続き、各学年で「いじめ」に対する意識を高めていけるよう各学級で日々の指導を行っていく必要がある。いじめ対策会議を月に一度実施し、早期発見に努めた。</li> <li>・校内では、スクリーニング会議を月に一度実施し、不登校児童などについて情報を共有した。</li> <li>・児童アンケートにおける「毎日、学校に来るのが楽しいですか」の項目について肯定的に答える児童の割合は96%であった。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】</b></p> <p>いじめを許さない心情を育てるとともに、本校の特色としての特別活動に注力し友愛の精神を育むとともに、善悪を判断し正しい行動をとる態度、集団で協業する意識の醸成を図る。</p> <p><b>指標</b></p> <p>いじめにかかる学習活動を学期に1回以上実施する。また、特別活動では縦割り活動を中心として、他学年の児童に対して適切な態度と行動をとることができるよう指導を進める。</p> <p><b>〈最終評価記入欄〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめについて考える日」で講話を聞いたり、道徳科の教材文を活用していじめにかかる学習に取り組んだりするなど、各学年で計画的に実施することができた。また、児童同士の日常的なトラブルを通して自分自身や学級全体への振り返りに取り組んできた。ほとんどの児童がいじめはいけないことという認識はあるが、日々の生活で友達への言葉遣いが荒々しかったり、接し方がきつかったりする場面が見られる。引き続き、子どもたちがお互いについてよく理解し合い、相手の立場に立って考えるような指導を行っていく必要がある。</li> </ul>	B

<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り班活動や集会活動については、計画的に実施されている。異学年同士の交流を通して、適切な態度や行動がとれるように今後も継続していく必要がある。</li> </ul>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</b>  <b>【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携した教育の推進】</b></p> <p>地域の人をはじめとして、様々な人とふれあう活動や保幼小連携を通して、豊かな道徳心や社会性を育む。また校内清掃に注力し、清潔で美しい環境づくり、協業意識を高める。</p>	
<p><b>指標</b></p> <p>ゲストティーチャーの招へいや交流活動を各学年1回以上取り組む。  幼保との連携を重視し、保育体験・入学体験などの取組を1回以上行う。  (感染症の状況により実施する)  ペア学年清掃など清掃への意識を高める実践を年15回以上行う。</p>	B
<p><b>〈最終評価記入欄〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画通り実施することができた。</li> <li>・ゲストティーチャーの招へいについては、区の体育指導として体育の専門的な指導を受けていたり、学年によっては、食農教育の一環として地域の方に食の大切さについて教えていただいたり、都島区の区長と「住みよいまちづくり」について学習する機会を設けたりするなど、計画的に実施することができた。</li> <li>・幼保小連携との交流についても予定通り実施することができた。(1年、3年、6年)</li> <li>・ペア清掃については、原則金曜日に計画通り実施することができた。高学年の児童が、低学年の児童に対して、優しく接している姿も見られた。</li> </ul>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</b>  大阪や自分たちが住む町の歴史・文化・自然にふれることのできる体験学習を実施する。</p>	
<p><b>指標</b></p> <p>全学年、年1回以上、大阪市内にある施設を見学したり、自分たちが住んでいる町を探検したり、地域の自然をテーマにした学習活動を実施する。</p>	B
<p><b>〈最終評価記入欄〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で年間の校外学習を計画し、施設の見学や地域の探検、外部団体との協力により実施している。実際に目にしたり、体験したりすることで、学習したことにより深めることができた。今後も継続して行っていく必要がある。</li> </ul>	
<p><b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各取り組みとも、計画通り実施することができた。</li> <li>・不登校児童については、学校に来ることは難しいが行事に参加できたり、本人の意識や周りのサポートにより改善されたりした児童がいる反面、昨年度よりも学校への登校が難しく、保護者ともなかなか連携が難しく不登校状態が改善しなかった児童もいる。また、HSCのような敏感な児童が増えてきつつあり、不登校児童に対する働きかけが難しいと感じる。</li> <li>・幼保との交流会は、今年度から再開した。</li> </ul>	
<p><b>次年度への改善点</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み内容①については、いじめに関しては、犯罪行為にあたるという意識で継続的に指導を続けていく。人への接し方についてさらに指導を継続していくことが必要である。</li> <li>・不登校児童や保護者への対応は、担任だけではなく管理職や他の教職員とも連携し、早め早めに手立てを考える必要がある。</li> <li>・幼保との交流会、地域との活動などは、事前準備などが授業時間の負担にならない範囲でないように計画する。</li> </ul>	

## 大阪市立内代小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> <b>全市共通目標（小学校）</b> ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。 ○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を82%以上にする。	
<b>学校の年度目標</b> ○令和4年度の児童アンケートにおける「宿題や習い事以外、どれくらいの時間、家で勉強をしますか」の項目について、「30分より少ない」と答える児童の割合を減少させる全校的な取組を実施する。	B
<b>《最終評価記入欄》</b> ○漢字検定への取り組みや漢字マラソンカード、自主学習ノートの活用例を紹介、デジタルドリルなどのICTを活用した教材で主に自主学習として取り組んできたが、「30分より少ない」と答える児童の割合は学校全体としては昨年度39%から43%にわずかではあるが増加した。学年別にみると減少した学年もあるが、取り組んでいる児童とそうでない児童には差があることが課題である。引き続き児童にも保護者にも啓発していく必要性を感じた。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> 学力向上に向けて、児童に実態に応じた基礎学力の向上、学習意欲の亢進、家庭学習・自主学習の充実に向けての取り組みを進める。 <b>指標</b> 全校をあげて算数科の授業改善に取り組み、全教員が2回以上研究授業に参画し、指導力の向上を図る。 計算など基礎学力の育成に注力し、年度末の児童アンケートにおいて「算数が好き」の項目で最も肯定的な「そう思う」と答える児童の割合を70%以上にする。 漢字検定に取り組み、児童・保護者アンケートにおいて家庭等で漢字学習に自分から取り組んだと答える割合を70%以上にする。	
<b>《最終評価記入欄》</b> ○計画通りに研究授業に取り組み、全教員が2回以上研究授業に参画し、成蹊大学の橋本先生や教育センター指導主事の盛田先生、梶川先生の指導を受けながら指導力の向上に努めた。 また、計算などの基礎学力の育成のために、算数タイムでは、学年に応じて計算問題に取り組み、個人のタイムを短縮する目標を立てたり、正答率を高める目標を立てたりして、達成感を得ることができた。年度末の児童アンケートにおいて「算	B

「数が好き」の項目で最も肯定的な「そう思う」と答える児童の割合は学校全体としては59%と目標を達成できなかった。学年の中でも差があり、高学年になるほど肯定的な回答をする児童が少なくなっている。積み重ねの中で難しさを感じている児童も少なくないので、学年ごとに確かな理解の定着の必要性を改めて感じた。

漢字検定についても、昨年度に引き続き目標を設定し、計画的に自主学習として取り組んできたことで、アンケートの、「漢字学習に自分から積極的に漢字学習に取り組みましたか」の項目では、79%と目標を達成することができた。しかし、児童と保護者のアンケートでは結果に差があることもあり、実態の把握は必要であると感じた。

#### 取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

ICTの活用やプログラミング教育への取組、英語学習（英語活動）を通して、グローバルな視野に立った「主体的・対話的で深い学び」が実現できる授業の研究を進める。

##### 指標

「英語教育」についての研修を学期に1回以上行う。

一人一台PCを授業において活用し、使用可能な授業日数の70%以上の活用を行う。

リモート授業を各学年に1回以上行い、臨時休業時への対応を進める。

大型モニターや書画カメラ、電子教科書などを全授業日数の85%以上使用する。

##### 《最終評価記入欄》

B

○ 外国語担当を中心にして、「英語教育」についての研修を予定通りに実施し、指導力の向上に努めてきた。

また、ほぼすべての学年で一人一台のPCを授業において目標の数値を達成できている。さらにリモート授業についても日を設定して各家庭に持ち帰り、接続テストを行うことで臨時休業時への対応を進めてきた。ほぼすべての家庭で接続できているが、通信環境に課題がある家庭も数家庭あった。

大型モニターや書画カメラはほぼ毎日100%を達成できているが、電子教科書については準備や通信など使用に課題も残っている。

#### 取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】

体育授業の改善、体育実技の研修会を通して、指導技術を向上させ、児童の体力の向上を図る。また、手洗いやうがい、睡眠、朝ご飯などのよい習慣を身に着けられるように、児童の実態に即して指導を充実し、感染症を意識した健康な生活が送れるようにする。

##### 指標

体育学習指導力の向上を意図した取り組みを年2回以上実施する。

児童の実態や課題に応じたテーマで学校保健委員会を実施するなど、保健指導の充実を図り、健康への児童の意識を高める。

##### 《最終評価記入欄》

B

体育学習指導力の向上を意図した取り組みについては、研修会や体育の取り組みを通して「体育科で学習したことを、休み時間に行ってみたい」と思えるような展開について全体での共有を図り運動好きな児童を増やし、体力の向上に努めてきた。

学校保健委員会での取り組みについては、2月末に健康委員会を中心取り組むことになっているが、「どれくらいの時間、テレビやビデオを見たり、ゲームをしたりしますか」の項目で2時間以上と回答する割合が増加(30%→33%)していることも踏まえ、学校保健委員会では、ICT機器の使用についての発表を行う。健康委員会の取り組みと同時に保護者への啓発を通して、スクリーンタイムの減少に向けての意識付けを行っていきたい。

#### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○指標については概ね達成できているものが多いが、児童と保護者の間で捉え方に差があり、学年の中でも達成できている学年とそうでない学年のなかで差があつたりした。数値だけに捉われることにはならないようにならうにしたいが、継続して取り組む必要性は感じた。

#### 次年度への改善点

○学年によっては児童数などで十分に関りや細かい点まで指導することができなかつたとの反省もあつた。校内での操作などで可能であるなら、児童と教師の人数の割合を変えることも検討したい。

## 大阪市立内代小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <p><b>【ICTにかかわること】</b></p> <p>○学習者用端末を授業において使用した日を（使用できる日）全体の70%以上にする。</p> <p><b>【働き方改革にかかわること】</b></p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を80%以上にする。</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p><b>【ICTにかかわること】</b></p> <p>○学習者用端末を授業において使用した日を（使用できる日）全体の70%以上にする。</p> <p>○指導者の指導力の向上を目指し、学期に1回以上の研修を実施する。</p> <p><b>【働き方改革にかかわること】</b></p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を80%以上にする。</p> <p><b>《最終評価記入欄》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●心の天気の入力とチームスへのログインは全学年で操作することができるようになった。</li> <li>●学習活動の中で、低学年ではNHKforschool等の動画を視聴したり、写真を撮って記録したりと積極的に取り組めた。高学年ではそれ以外に意味調べ等のインターネット検索やプログラミング学習、プレゼンテーション、Sky Menu、コラボノート等にも活用した。</li> <li>●自主学習の取り組みの1つとして、デジタルドリルの活用も行った。</li> <li>●ICT支援員の訪問日が増え個別に操作の説明を受けることができた。</li> <li>●指導者の指導力の向上を目指した研修は、計画通りに進めることができ、成果が見られた。</li> <li>●行事の取り組みで、簡略化できるものについて努力した。ただし、内容の質が落ちないようすると思い切った精選につながらないものもあった。</li> <li>●時間の確保については十分にできているとは言い難い。しかし、新しい取り組みが入ってくる中、なくしていく取り組みがない現状があるので、簡略できることを今後も探っていくなければならない。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</b></p> <p>授業中に、児童がICT機器を操作し、情報にアクセスしたり、電子ドリルを活用したりし、主体的な学びを進める力を養う。</p> <p><b>指標</b></p> <p>令和5年度の児童アンケート調査で「日々の授業の中で学習者端末を活用して学習をしている」の項目でほぼ毎日と答える割合を70%以上にする。</p> <p><b>《最終評価記入欄》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●児童アンケートの「日々の授業の中で学習者端末を活用して学習をしている」に対する肯定的な回答の割合は70%を上回った。</li> <li>●学習者用端末は学習活動の中で、調べ活動、記録活動、表現活動など学習ツールの1つとして活用していた。そのため、児童の操作技能は高まった。</li> </ul> <p><b>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <p>研究授業をより実効性のあるものとし、また実技等の研修を充実させることで、指導力の向上を図る。</p> <p><b>指標</b></p>	B

教職員アンケートにおいて「研究授業や校内研修が実のあるものになったと思うか」の項目で85%以上の教員が肯定的な評価をする。

#### 《最終評価記入欄》

- 研究授業や校内研修は実りあるものになるよう、指導内容や方法などを話し合い計画通りに実施された。
- 教職員のニーズに合わせて研究や研修に取り組めた。また、大学や教育センターから来校してもらい、指導助言を受けることで指導力の向上が図られた。

#### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・心の天気の入力とチームスへのログインは全学年で操作することができるようになった。
- ・ICTを使った学習の取り組みについては、全学年で取り組んでいる。
- ・研究、研修については年度当初の計画通りに進められた。研修会での講師先生による指導が実りあるものになった。
- ・働き方改革に対する意識については、高まりがみられた。

#### 次年度への改善点

- ・PC管理について、教員で行っている現状の改善が急務である。
- ・学習者用端末の使用について、内規ルールを決める必要がある。
- ・働き方改革に対する意識の高まりがあるものの、実際の業務についての改革は容易ではない。  
また、意識の高まりがプレッシャーにならないか懸念される。

(様式)

## 平成 5 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立内代小学校 学校協議会

### 1 総括についての評価

おおむね評価できる内容である。感染症による行動制限が緩和され、ゲストティーチャーによる外部講師の招へいや地域を巻き込んだ交流など、積極的に開かれた学校づくりを推進している。また学力においては、児童の実態把握に努め課題解決に向けての取り組みが評価に値する。特に今年度すぐに校時を改訂し、全校児童が取り組む計算タイムを設けたことはよい取り組みである。今後も臨機応変に対応し、児童の健やかな成長に向けての取り組んでくれることを期待する。

### 2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

#### 安全・安心な教育目標の推進

##### 【年度目標】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童に対する取り組みを強化し、月に一度情報交換を実施する。
- 児童アンケートにおける「毎日、学校に来るのが楽しいですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を 90% 以上にする。

##### 【評価】

- ・各取り組みとも、計画通り実施できている。
- ・不登校児童については、難しい問題ではあるが家庭と連携して取り組みを進めていく必要がある。地域でできることがあれば協力していく。
- ・幼保や地域との交流が、今年度から再開できたことは地域にとってもありがたい。ぜひ今後も継続して取り組みをすすめてもらいたい。

#### 未来を切り拓く学力・体力の向上

##### 【年度目標】

- 令和 4 年度の児童アンケートにおける「宿題や習い事以外、どれくらいの時間、家で勉強をしますか」の項目について、「30 分より少ない」と答える児童の割合を減少させる全校的な取組を実施する。

- 指標については概ね達成できていると承諾する。児童と保護者の間で捉え方に差があるので、どのように家庭を巻き込んでいくのかが、課題である。学校全体の人数は少ないので、数値だけに捉われることにはならないように取り組んでもらいたい。

## 学びを支える教育環境の充実

### 【年度目標】

(ICTにかかわること)

○学習者用端末を授業において使用した日を（使用できる日）全体の70%以上にする。

○指導者の指導力の向上を目指し、学期に1回以上の研修を実施する。

(働き方改革にかかわること)

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を80%以上にする。

・1年生から6年生までの発達段階が違う中で全学年で操作することができるようになっているのは素晴らしい。

・ICTを使った学習の取り組みについては、おそらく今後も必要になるので、さらに取り組みを進めてもらいたい。

・研究、研修については教員の指導力を向上させるためにも必要であるので、充実してもらいたい。

・働き方改革を進めていくのは難しいと思うが、意識して進めてもらえればと思う。

## 3 今後の学校園の運営についての意見

来年度も運営の関する計画に基づいて取り組みを進めてもらえればと考える。開かれた学校づくりを目指して、ゲストティーチャーによる外部講師の招へいや地域との交流を活発にし、学校、保護者、地域が連携し、協力できる体制を一緒に作っていくことができればと思う。

